

看護部介護職員キャリアアップ評価基準

平成 25 年 4 月 1 日一部改訂

	レベル I	レベル II	レベル III	レベル IV	レベル V
職掌	業務職	業務職	業務職	業務職・一部指導業務	主任・管理業務
到達目標	社会人また組織人としての責任と自覚が持てる。介護基礎技術・知識を理解した援助ができる。	組織人として自己の位置付けを理解できる。介護手順を理解した助言を行うことができる。	チームにおける多職種連携の役割が果たせる。介護感が明確化され介護実践の理論的裏付けができる。	施設における介護専門性に目を向け課題に取り組める。介護専門職として、メンバーに指導・指示が行える。	看護部方針から部署目標を設定し行動計画・実施・評価が行える。部署間連携・調整が行える。
実践能力	エントリーレベル。施設介護職と働く上で必要な基本的知識があり、指示のもと介護実践ができる。ケアプランに沿うケア実践。	施設介護手順を理解し、一定のニーズ・状況変化を判断した介護実践ができる。ケアプランの立案・実施・評価・修正ができる。	施設介護手順を踏まえた状況・現状変化を判断した適切な報告が行え、的確な介護技術が実践できる。	施設介護手順と自己の自立した介護技術を実践でき、課題に気付き対応することができる。ケアプラン記録監査が可能。	介護専門職として自立していることに加え、専門分野業務からの認知・評価ができる。記録監査指導が可能。
管理能力	チームメンバーの役割の自覚が持て、相談・報告ができる。組織の委員会活動がわかる。	チームメンバーシップが発揮でき、リーダーへの相談・報告ができる。委員会活動の意味を理解できる。	チームリーダーの役割の自覚が持て、メンバー相談・報告内容への対応ができる。委員会委員として役割が果たせる。	チームリーダーシップが発揮でき、メンバーに指示・指導することができる。委員会活動に主体的に参加でき意見が明確に言える。	チームや部署の管理ができ、達成困難や複雑な課題について問題解決にあたることができる。潜在的問題への予見判断した対策案が立案できる。委員会のリーダーができる。
教育・研究	部署・院内研修会に主体的に参加できる。研究活動への関心がある。	研修目的を理解して研修に参加できる。ケーススタディの取り組み。	自己目標・役割を意識した研修参加が主体的にできる。研究活動メンバーになれる。	研修カリキュラムを理解し、研修参加を促せる。主研究者として成果を発表できる。	施設研修カリキュラムを生かし、課題に応じた研修企画・立案・実施・評価ができる。研究発表・研究支援が行える。
認定研修	介護職員基礎研修		認知症介護実践者研修	介護福祉士養成指導者研修 認知症介護リーダー研修	対策指導者養成研修等
業務	ヘルパー・新卒介護福祉士 介護補助業務	介護実践 2 年以上 介護定型業務	介護実務 3 年以上 介護中級業務	介護実務 5 年以上 介護上級業務	介護実務 7 年以上 介護指導・監督業務